



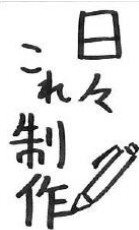
ちよつぷり

## 百物語がはじまるよ

3月18日からK A A T神奈川芸術劇場で上演する、デフ・パペットシアター・ひとみ4年ぶりの新作人形劇「百物語」。1月から本格的に稽古が始まりました。今号では稽古場からの情報をたくさんお届けします。



ちよつぷり奇妙な「百物語」の世界ようこそ！



吉村衣世



「この世に「コロナ」が流行し、気が付けば2年が経とうとしています。

私たちが新作を作ろう、と動き出したのもちょうどそのころでした。月にいちど会議を開き、みんなのやりたいことを話し合う場を設けました。マスク越しの手話の飛び交う会議はとても難しく、2年後果たして公演ができるのかどうか、というか生きてるんだらうか、というくらい混乱の中で、それでも何かを共に創る気持ちと、創れる環境があることは、今思うと奇跡のようでした。

そんな私たちの気持ちに寄り添ってくれたのが杉浦日向子さんの「百物語」でした。人間の中に潜むもやもやとした感覚を不思議なものたちに投影し、ぼつりぼつりと語らう。かつての江戸の人々の、よくわからないモノとの向き合い方に、今の私たちは何を写すのか見てみたいと思いました。

この世界を表現するにあたり、様々なバックグラウンドを持つ個性的なキャスト・スタッフが参加してくれています。演出の白神もも二さんは、ひょいひょいとそれぞれの面白い部分を拾い上げ、物語の世界にぐるぐるっと溶かし込み、スパイスの効いた味付けをしてくれます。

最近、仕事帰りにちよつと一杯やって話そうよ、というのが中々気軽にできなくなってしまうました。その代わりにと言ってはなんですけど、ちよつと一杯みたいな感じで、ふらつと是非劇場に来ていただければと思います。そして、この作品に重ね合わせてみたり思い馳せてみたりしながら、今までのみなさんやこれからのみなさんと、舞台を通して対話ができたらいいなと思います。

## 「百物語」構成・演出 白神もも二さんから

こんにちは、初めまして。振付家・演出家・ダンサーの白神もも二と申します。

今回、デフ・パペット・シアター・ひとみ『百物語』（原作：杉浦日向子）の構成演出を担当しています。私は普段、モモンガ・コンプレックスというダンス・パフォーマンス的グループで「ダンス・パフォーマンス」的な作品を作っています。何それ？ダンス・パフォーマンス的？なんで「的」などとややこしいもの付けるのか？ダンスなの？なんなの？と思われる方もいらっしゃるかもしれません。私は自分の創作する作品は、ダンスでもパフォーマンスでもあるけどそう言い切って表現を象ってしまいたくない、これは何ダンス？とか演劇、音楽、美術とかジャンルを区切ってしまうその狭間にあるちよつと味わい深いふわふわしたところもあるはずという想いから、そんな半端な名目を若いときから使っています。

そんな私ですが、原作となる杉浦日向子さんの『百物語』を演出するにあたって『百物語』の持つ終わりのない「的」な曖昧さが妙にじっくりきています。杉浦日向子さんの語り口も簡単には白黒決着を付かず、ふんわり道ばたに置いて来た感じのお話ばかり。

「年寄りの侘住、退屈でならないから何ぞ珍しい話でも聞かせておくれ」  
庭にいる庭師に向かって、家主がふと声をかける

ところから始まる杉浦日向子さんの『百物語』。人は死ぬまでのあいだ、ずっと暇つぶしをしていると考えている私も「何処か知らない誰かがどうなったか」なんてものをネットニュースやTwitterで日々ぼんやり眺めている日々。ほえっと、それを知ったからってなんの役にも立たないけれど。昔もそんな感じで自分と少し遠いような、でもちよいとすぐそこでおこっているようなふんふん耳を傾ける。

昔の人はネットも電話もないから、人を介して誰かの創造と真実、真意とが入り交じる。知らない村であった話、森で出会った奇妙な体験、昔からの言い伝えなどなど。

そして、日々のちよとした隙間に「もしかしたらあれってこれのことかも…」なんて自分がいる場所のちよとした隙間に異界の息吹を感じたり、ふと頭の中でもくもく創造したりする。異界の隙間はふとしたところにふと存在していて、普段よりゆっくり歩いてみたり、お茶を飲んでほうーっと息をついたところに広がっている、そんな気がしています。

今回の『百物語』の出演者は、人形劇団員、俳優、舞踏家、ダンサー、ろう者、聴者、人形、物、いろいろです。人形劇は、普通の舞台よりも更に色んな想像力と創意工夫を必要とするものだと思います。物と人形の狭間、人間と人形の狭間、裏方と表方との狭間、人と舞台美術や光の狭間…。

さまざまな狭間から異界が飛び出してくるような世界をお届けできるように、出演者、スタッフ一同世界をぼわんぼわんと膨らませてお待ちしております。



白神 ももこ 東京都出身。2005年よりダンス・パフォーマンス的グループ、モモンガ・コンプレックスを立ち上げ、すべての作品の構成・演出・振付を担当。個人史や生活をもとにした作品創作を行う。2017年度・2018年度セゾン文化財団ジュニアフェロー。四国学院大学、桜美林大学非常勤講師。2019年度、富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。

## 役者のコラム

### 3ヶ月に一度の「ん」には

榎本トオル

今回の新作には新しい試みがたくさんあります。

人形劇やダンスや手話のアーティストたちがそれぞれの役割をこなすのではなく、ひとりひとりが色んな挑戦をしなければいけません。演出などのスタッフとも力を合わせて、どんなふうにも人形劇をつくっていくのか、それも『百物語』のみどころです。杉浦日向子さんの原作漫画を読みながら稽古をしていく中で台本が生まれていきます。作品が楽しいのはもちろんですが、そんな稽古場の様子も想像して楽しんでほしいです。

稽古の中でも印象的だったのは、最初にみんなで取り組んだワークシヨップです。缶切りなどの日用品を持参して遣ったり、紙(印刷していない新聞紙)を使って即興で表現したりしました。紙を足だけで触ってみたり、においを感じたりすると、あたらしい気付きがたくさんありました。

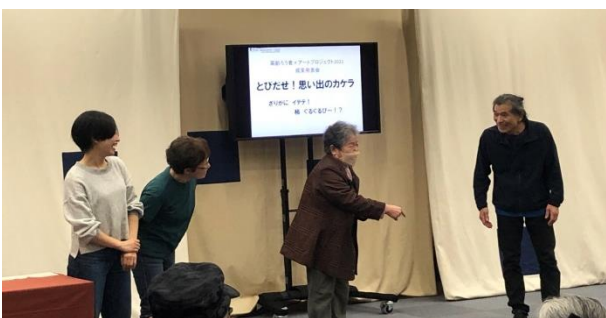
今はコロナの感染者が拡大して、いつだれが感染してもおかしくない日々になってしまいました。新作のコロナ活動も難しくなり、リモートでの活動も多くなりました。よくよく気を付けて稽古して、公演当日を迎えたいと思います。

## 近況、あれやこれや

公演

◆11月6日 和歌山ろう学校にて「稲むらの火」を上演しました。

◆11月21日 埼玉県寄居町の「川の博物館」にて「一寸法師」を上演しました。



そのほか

◆11月27日 埼玉県草加市にて「河の童」を上演しました。  
◆11月29日から「はこ」の学校巡回公演を行いました。今年度は関東の10校にお伺いしました。

◆12月11日に東京都東村山市、12月12日に千葉県袖ヶ浦市、1月22日に茨城県つくば市で、それぞれ「はこ」を上演しました。

◆各地の小中学校でワークシヨップ(はこWS)「音のWS」「O△□のWS」のはらうた「榎本トオルのWS」を実施しました。

◆「新作人形劇・百物語」稽古が本格的に始動しました。  
◆「高齢ろう者×アートプロジェクト」 神奈川県川崎市・愛知県春日井市にて2021年度の成果発表会」とびだせ！思い出のカケラ」を実施しました。

写真は「高齢ろう者×アートプロジェクト2021」成果発表会のひとコマ。ご高齢のろう者から伺った「こどものころの遊び」のエピソードをもとに、小さなお芝居を披露しました。また、開演前や終演後にはご来場された皆さんと懐かしのおもちゃを使ってたくさん交流しました。

川遊びや紙芝居、メンコにおはじき。懐かしい思い出の数々はお楽しみいただけただけでしょうか？

このプロジェクトは来年度以降も続いていきます。続報をお楽しみに！